

説 教

Open Church 礼拝

北浜チャーチ

2024年3月10日(日)

黒田 禎一郎

主 題：「リスペクト精神は元気を与える」

—神のみことば—

テキスト：申命記6章4～9節

はじめに

・おはようございます。

- ・教育は、大変大切です。なぜならば教育によって人は成長し、社会は変わるからです。学校現場では、「ゆとり教育」と「詰め込み教育」という言葉が聞かれます。どちらも子どもの能力を伸ばそうという考えから始まったことでしょう。
- ・コロナ禍の中、2019年からの3年間は、子どもの学習意欲が低下する傾向があったそうです(文部科学省)。「勉強する気持ちがわからない」を肯定する子ども(小4生から高3生)は、2019年は45、1%でしたが2021年に54、3%となり、半数を超えました。コロナ禍の影響で学習意欲は、子どもの中でも変化していたことが分かりました。
- ・2000年以降、15歳を対象に行う「国際学習到達度調査」(PISA)が行われています。そこで、A 中学3年生で新聞を毎日読む子どもと、B 読まない子どもに成績の差があることが判明しました。
 - 国語：A 76.5%の正解率(毎日読む)、
B 69.2%の正解率(ほとんど、or 全く読まない)
 - 数学：A 61.8%の正解率
B 50.1%の正解率
 - 英語：A 58.0%の正解率
B 44.6%の正解率

* (令和5年度、全国学力が学習状況調査、文部科学省)
- ・ところで、日本の多数の子どもたちにとっては、学ぶことは受験と関係が深いと思います。すなわち受験のための学習です。しかしその目標がなくなると、学習意識は低下してしまいます。しかし、考えてみてください。
- ・人生は一生勉強ではありませんか。学校だけの勉強だけでなく、私たちは社会人となっても学ぶことは沢山あります。それによって、人は成長し成果を生むことができます。

- ・学習によって得るものは少なくありません。学習はクリエイティブ（創造性）を高め、前向きの人生に向かわせます。
- ・では、私たちは自分を向上させるために、どうすれば学習意欲が湧いてくるでしょうか。それは学生だけでなく、だれにとっても大切です。今日は、私たちを向上させる学習について考えましょう。 2点

大切なポイント

1. 成長は憧れの連鎖から始まる

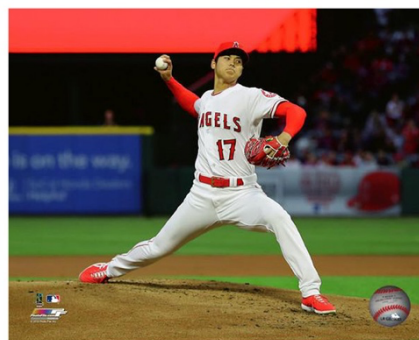
- ・社会には、私たちを育て成長させるものと、そうでないものがあります。前者はリスペクト精神のことです。

1) リスペクト精神

- ・皆さん。まず、学ぶ心（学習意欲）は、一人で身につくものではありません。人間は生まれながら、学習意欲がある人は、多くはないでしょう。ですから、そのままであれば、そのままの自分であります。
- ・しかし創造神は、私たちが学び成長することを願っておられます。そこで、神は私たちに動機（モチベーション）を与えてくださいます。モチベーションは、人を前に動かす原動力です。モチベーションとなるものの一つに、「憧れ」があります。
- ・先人の姿に「憧れ」を感じ、私もあの人のようになりたいというものです。

『例 話』

- ・今、注目の人⇒高校野球界で知られる花巻東高校の佐々木麟太郎選手。彼は高校通算ホームラン数140本。どのプロ野球界からも一位指名確実であった彼は、米国スタンフォード大学に進学の道を選びました。世界の大学ランキングが第2位の名門スタンフォード大学に、日本の高校から直接入学できる人は、1年に一人か二人だそうです。佐々木選手は時の話題の人となりました。
- ・一方、大学側も4月の入学前から大学ホームページで大物佐々木選手を取り上げました。実は佐々木選手が米国行きを決心した背景には、彼と同じ高校出身の「憧れの人」大谷翔平選手の存在がありました。佐々木選手は、自分も米国メジャーに、夢を置き活躍したいと語っていたことが分かりました。
- ・彼のことは：「米国で野球だけでなく、勉強もしっかりやり学習したい」



佐々木選手には、身近に「憧れの人」がいて、高い学習意欲が見られます。

- ・「憧れ」は、リスペクト精神を養います。そしてモチベーションを高めます。ですから、仮に「自分も賢くなりたい！」という「憧れ」を持つならば、それは良いことです。
- ・聖書は、モチベーションを高めることを教えています。
 - ⇒ 小さな蟻から学ぶ（学習）こと。箴言6章
 - 6:6 怠け者よ、蟻のところへ行け。
そのやり方を見て、知恵を得よ。
 - 6:7 蟻には首領もつかさも支配者もないが、
 - 6:8 夏のうちに食物を確保し、
刈り入れ時に食糧を集める。
- ・この箴言の著者はユダヤの賢者でした。賢くなることは、昔も今も変わらない「憧れ」です。賢者が持つ知恵を得るならば、何という幸いではありませんか。
- ・学ぶこと（学習）は、⇒人の心を成長させて、発想、判断・識別力を養います。その共通項は、「リスペクト」（尊敬すること）です。誰かに敬意を感じ、憧れ、自分をそこに重ねていくという習慣は大切です。
- ・人は憧れの連鎖に入ると、良いパターン（肯定的リズム）となり元気を得ることが出来ます。

- ・ある時、イエスの元に実業家の青年がやってきて、質問しました。
 - マタイ19章
 - 19:16 すると見よ、一人の人がイエスに近づいて来て言った。「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをすればよいのでしょうか。」
 - するとイエスはユダヤの律法を守るよう言われました。
 - 19:17 イエスは彼に言われた。「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方はおひとりです。いのちに入りたいと思うなら戒めを守りなさい。
 - 19:18 彼は「どの戒めですか」と言った。そこでイエスは答えられた。「殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽りの証言をしてはならない。
 - 19:19 父と母を敬え。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」
- ・いえすは、この青年に大切なことを教えられました。それは
 - 19:19 父と母を敬え。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」
 両親を敬うこと、そして隣人を愛することです。
 - ⇒ リスペクト精神

- ・ところが、私たちが生活する社会はどうでしょうか。

2) ノーリスペクト社会

- ・今の時代、憧れる人が少なくなっていることが問題です。学校、会社、サークルにおいても、自分の憧れの人はどこにいますでしょうか。
- ・今の時代、多くの人々は「何か面白いものはないか」と探し回っているのではないのでしょうか。世の中は、それを「自分探し」と呼んでいます。かつては、情報を生み出し、調べたことを発表することは尊敬される時代でした。
- ・読書もその一つです。読書は自分一人に語りかける静かな時間であり、それによって自分を掘り下げる時間でした。(読書する人が少なくなっていることは事実です。)
- ・その背景には、SNS、YouTube 等の普及があります。インターネット上で「情報はタダ」という認識があります。私たちの周りには情報(フェイク・ニュースを含め)が溢れ、情報が洪水のように溢れています。しかも無料です。受け手側は、まるでバイキングのように自分にあつた必要なものを取り、自分の皿にのせれば良いのです。しかし、そこには問題があります。そこにはリスペクトはないことです。
- ・皆さん。「ノーリスペクト」社会に生きていくと、心の豊かさを失い、元気を失いがちとなってしまいます。リスペクト精神は学ぶ心、学習心を高めてくれます。
- ・では、どうすれば学ぶ心が養われるのでしょうか？
それは知恵ある書(聖書)から、知恵を得ることです。

2. 聖書が教える知恵

- ・ユダヤ、5千年の歴史をつづる聖書は、どのように教えているのでしょうか。

申命記

6:4 聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。主は唯一である。

6:5 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

6:6 私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい。

6:7 これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家で座しているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい。

6:8 これをしるしとして自分の手に結び付け、記章として額の上に置きなさい。

6:9 これをあなたの家の戸口の柱と門に書き記しなさい。

- ・これは天地を造られた神のことばで、非常に大切なことを教えています。

1) 聖書は基本を教える

- ・この聖句を注意して読むならば、次のことが明らかになります。
 - いつ? ⇒ 昼も夜も (家、道、寝起きする時も)
 - 誰が? ⇒ 次の世代を担う子どもたち
 - どのように? ⇒ しるし (手に結びつける)
- ・ユダヤ人たちは確かに親が子どもに、このように教えてきました。それは聖書に、生きるために必要な知恵が全て秘められているからです。
- ・皆さん。なぜ、ユダヤ人にノーベル章受賞者が多いのでしょうか。聖書はその理由を次のように語ります。イザヤ42章6節
 - 「わたし、主は、義をもってあなたを召し、
あなたの手を握る。あなたを見守り、
あなたを民の契約として、国々の光とする。
- ・聖書は基本を教えています。

2) 聖書は基準を教える

- ・ところで、日本社会は残念なことに大切な信用を失いつつあります。国会議員の「キックバック問題」、その金額は半端ではありません！
産地偽証事件 (肉生産地、貝産地、ウナギ産地など)
 - ⇒ 信用を失ったツケは、小さくなく大きな損害です。
- ・これらは不正行為であり、誰でも行ってはいけないことは、承知しているはずですが。しかし、人はその過ちを繰り返し犯しています。なぜ、過ちを繰り返すのでしょうか。⇒ 人間はそのような存在であるからです。
- ・つまり、人間は正しいことと、正しくないこと、その基準に従わなければ脱線してしまう物であります。聖書はその大切な基準を教えています。人が人として生きるには、何が基準でしょうか。
- ・仮に、創造神が分からなければ、自分の基準でしょう。自分の知識、自分の経験、そして自分が誇れるものが基準となりましょう。しかし、それらは何か起これば崩れしまうものではありませんか。
- ・神の基準はそのようなものではありません。
聖書：イザヤ40章
 - 草はしおれ、花は散る。
しかし、私たちの神のことばは永遠に立つ。」
- ・あなたの人生の基準はどこにありますか？

{例 話}

- ・自ら盲聾啞者で三重苦を負いながら、そのハンディーにも負けず、故国アメリカはじめ世界中の障害者のために、生涯をささげた人ヘレン・ケラー女史(1880～1968年)がいました。
 - ・その彼女を育てた人々の中で、特に大きな役目を果たした人はサリバン女史でした。サリバン女史はヘレンが7歳の時から家庭教師として、そばにいて27年間も彼女を教えました。
 - ・サリバン先生は、2歳の時より盲聾啞者となったヘレンに、試行錯誤の末、やっと手のヒラでアルファベットを理解させることに成功しました。それはどんなに大変であったか、健常車には理解しがたいものです。何しろ、聞こえない、見えない、そして話せないヘレンでした。その盲聾啞者のヘレンに、サリバン先生は物には名前があることを教え始めたのでした。
 - ・サリバン先生がとった学習方法は、ヘレンを動植物に触れさせることに始まりました。そして、ヘレンを動植物に触れさせると、すぐに手のひらにアルファベットでその名前を記しました。そのような教えによって、ヘレンは一つづ学習し、世界が広まっていきました。それは根気、忍耐がいる学習です。
 - ・しかし、サリバン先生は行き詰まりました。物の名前は教えられましたが、手に触れることができない「愛」を、どう教えたら伝わるかでした。ある日のこと、サリバン先生はヘレンに「愛」を伝えることができなく、自分の力の限界を知り非常に落ち込んでいました。その時でした。彼女はヘレンの手を握り、泣き出しました。その涙がヘレンの手にハラハラと落ちるや、ヘレンの心に深い感動が湧き上がりました。「愛」が伝わったのでした。
- ・教える意欲、学ぶ意欲こそ、私たちが生きる原動力、推進力です。それは愛に根ざしています。神は私たちに愛と忍耐を持って、聖書の言葉を教えてくいます。リスペクト精神、人を尊敬する心、神がお造りくださった人を愛し、敬うことによって、私たちは元気を得ることができます。

ま と め

主 題：「リスペクト精神は元気を与える」

—神のみことば—

テキスト：申命記6章1～9節

6:5 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

6:6 私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい

*God bless you!